

武庫川の現状と課題

武庫川流域住民は、100年の計はもとより今日の武庫川への治水に関し「安心・安全」を求めています。そのためには、近年に発生した災害事例に対して、その原因と対策を具体的に把握し理解することで、武庫川への治水に関する検討課題に参加し、自らの意思表示が得られると考えます。

今後は集中豪雨をも仮定し、机上討議と平行に現地検証が必要です。

まず、流域の概要図に、以下の3事例別に各々の洪水要因をプロットし、洪水発生メカニズム(概要)を理解する。

1, 第1ステップ

*過去の事例の検証と対応

降雨量と水害発生原因と発生場所、その対応(主たる原因と改修内容)

①過去(近年)の実績降雨量をリストアップ(例えば 180 mm/2 時間以上)

- ・発生事例 ; 昭和 35 年 昭和 58 年 平成 1 年
- ・流域ごとの降雨量

②流量

- ・支川の流水能力(危険流量)と流量
- ・本川の流水能力(危険流量)と流量 ・ 低水域の拡張

③ダムの貯水能力と貯水量(ダムによる効果)

④危険箇所と改修内容

⑤本川へ及ぼす支川特有(降雨量)の問題点、ならびにその対策

土砂災害(土砂流出による河川の流量阻害)・ 砂防ダムの保全

⑥上流域の水源涵養保安林の実態

⑦当時の貯水池の能力と効果

⑧河川空間(高水域)の働いと、低水路への移管(河積の拡張)

2, 第2ステップ

①計画規模(イメージ含む)における治水計画策定の検討

雨量・流量などの試算・解析・評価し河川の数的立証の構築

②地震への対応

堤防の対震度

③超過洪水対策

④堤防林(河畔林)の堤防安全性

3, 第3ステップ

洪水災害警報システム

危険箇所の公表・的確な情報伝達と早急な避難ルールの確立

4, 第4ステップ

流域開発と保水施設

特に上流域の開発に対する治水貯留施設の設置

住宅・企業・レジャー・道路等の新設